



【カボチャ】 ※原産地：中央アメリカ北部

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
播種					○	○						
収穫								○	○	○		

■播き時と定植 ※西洋カボチャは粉質で、日本カボチャはどちらかというとなべチャとしている。

- 2週間ほど前に苦土石灰を1㎡あたり1握り（約100g）まいて、耕す。（酸性を中和）
- 1週間位前に元肥を与え、土をもどす。（深さ30cm、直径30cmぐらいの穴を掘って、鶏糞バケツ1/3杯、堆肥1/2杯（約5ℓ）を入れ、土をもどす。窒素分を少なくしないと茎ばかり繁ってしまう。）
- 水はけのあまりよくないところは10cm位土を高く盛るとよい。（くらつき）
- 桜の開花と歩調をあわせて種を播く。必ず尖った方を下にして、立てて種を埋める。
- カボチャにふさわしい大きな子葉が出てくる。この時種の皮が脱落せず、子葉にくっついてきたり、皮が引っ掛かって子葉が完全に開かないものはダメ。（※我が家では種を播いた後、量販店で売っているホットキャップをかけます。4本棒を立ててビニールで囲むあんどんもありますが、ホットキャップの方が早く芽を出し、その後の成長も良いようです。

■育て方のコツ

- カボチャの根は広い範囲に広がっていくので肥料は多くいる。しかし葉が真っ黒になるような窒素のやりは禁物。ツルだけが繁る、ツル呆けが起こる。肥料の中の窒素分が多すぎるとどんどんツルが伸び、なかなか実をつけません。花がついても雄花ばかりとなる。10節（葉から葉までが1節）ぐらいまで伸びたら先端を摘んで、芯止めをする。こうすると親ツルの株元近くにある葉の付け根から、新しい子ツルが伸び始める。このツルを4本伸ばす。元気に伸びる子ツルを残す。左右に2本ずつ伸ばすか、親ツルと一緒に同じ方向に4本伸ばすかは菜園の形状次第。
- やがて子ツルから孫ツルが出てくる。これは全部摘む。
- 雌花と雄花を見分け、確実に受粉をしたければ、人工受粉をする。開花は夜明けとともに始まるので、開く直前の花を破って、雄花の中にある雄しべを取り出し、すぐさま雌花の先を開いて花粉を雌しべにそっとこすりつける。雄花の寿命は短いので開花の日をねらう。
- 大きな実ならツル1本に2個。小さめのカボチャを沢山収穫したければ、最初の実を未熟うちに食べてしまう。するとカボチャにとっては子孫を増やそうと、次々に雌花を咲かせる準備にかかる。

■料理のポイント

❖その他